

# ヒューマンケア学部 看護学科

## 教育方法と教育の特色ある工夫

本学の各学科・コースは、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー、以下CP）に基づき、それぞれの特色を活かした教育方法による授業を行っています。さらに、資格取得科目の充実など、教育方法に工夫を重ねながら、教育内容の向上に取り組んでいます。また、大学全体として、全学部生が共通して履修する必修科目、「フレッシュセミナー」「アドバンスセミナー」においては、少人数教育を実践しています。セミナー担当教員は、各学部・学科・コースのCPに基づく学修指導の他、学生生活全般にわたる指導を行っています。これにより学生は、社会人として求められる常識や教養等の汎用的能力と、各自の専攻分野や関心領域に関わる幅広い知識をバランス良く身につけることができます。この「セミナー」は、キャリア教育の一環として、学生の様々な相談にも応じています。

### 【教育方法】

看護学の特性により、授業や臨地実習における教育方法は、個々の学生の認知的・社会的能力を引き出すために、ディスカッションやディベートなどの双方向の講義、学生の能動的な調査研究・演習・実技・実習等を中心としたアクティブ・ラーニングに力を入れています。

看護学の授業では、臨床実践に近い状況を想定した“シミュレーション教育”を充実させるとともに、臨地実習開始前には看護技術試験を行い、終了時には、修得すべき看護技術内容が一定の標準に到達したか“客観的臨床能力試験 OSCE”で確認し、看護実践能力の質の保証に努めています。

### 【教育の特色ある工夫】

- ・看護の教育内容は基礎的から専門的、応用的に至る学修段階を重視し、系統的に行われています。
- ・「基礎分野」では、人間や生活を理解し、科学的思考の基礎となる社会人としての教養を身につけ、セミナー科目では、eポートフォリオを用いてキャリア開発を促しながら、自律的態度と自己管理能力の確保につなげています。
- ・「専門基礎分野」では、疾病の成り立ちと回復の促進、社会保障制度に関連する科目などは講義が中心となりますが、根拠に基づいた看護を展開できる基盤となる知識を修得させます。
- ・看護学で構成される「専門分野Ⅰ」「専門分野Ⅱ」では、ライフサイクルのあらゆる健康レベルに対応した患者中心の看護が展開できるよう、看護倫理、医療安全などの知識とともに看護技術の基本を修得させています。その後の臨地実習では、学んだ知識や技術を患者に適用させる中から、看護職としての思考力・判断力・実践力・コミュニケーション能力を定着させるように努めています。
- ・看護実践の統合を図る「統合分野」では、在宅看護、国際・災害看護等でグローバル時代に相応しく視

野を広めるとともに、看護研究では、課題を発見解決し、看護を概念化するところまで実践的に学びます。

- ・チーム医療に資する人材を育成するための薬学科との“IPE（連携教育）”は年々充実しています。特定看護師やNP（ナースプラクティショナー）の活躍が見込まれる将来を見越した『看護臨床薬剤学』の科目は、薬学部との協力を得て、薬の事故防止や取り扱いなどの知識をより深く広く学ぶことができる機会となっています。